

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000843		
法人名	株式会社 ふれやか		
事業所名	グループホームふれやか 癒楽		
所在地	北見市春光町1丁目31-1 (電話・FAX) 0157-61-5666		
自己評価作成日	令和2年7月23日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2月末よりコロナウイルス感染に伴い、手洗い、うがい、マスク着用し3密を防ぎ、外出の自粛、面会禁止、訪問診療、訪問介護等すべてに於いて禁止、スタッフも不要不急の外出を避け体調管理に努め ご家族様、入居者様の協力も得て幸い誰一人罹患する事無く現在に至って居ります。現在癒楽の入居者様は女性9名で生活しております 一人ひとり個性が有り出来る事、出来ないことを見極めながら対応して居ります。何かやりたいと希望される入居者様はいなくスタッフからオセロ、スクラッチアート等一緒に行き楽しみつくりをしています。毎年楽しみにされていた くるくる寿司への外食も行う事出来ませんでしたが、「お寿司食べたいよ～」の声も多くあり 当日はテイクアウトし皆さん美味しく頂き満足されたようです、現在も食事前の嚥下訓練、口腔ケア、舌ケアを行い、正しい 姿勢を保ち食事をして頂く様声掛けし誤嚥性肺炎の予防をしております、又一人一人に合わせた食事(形態)を提供できていると思います

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0175000843-00&amp;Se">mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0175000843-00&amp;Se</a>
-------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年10月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は癒楽理念を共有し入居者さんとゆっくり、共に歩む様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会、地域との繋がりを大事にホームでの会議、行事に参加頂いたり町内会のレクリエーションに入居者さんと共に参加していたが、今年はコロナウイルス関連に伴い参加出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は小泉中学校1年生の研修受け入れを行い認知症の人への理解や支援の仕方、日常生活など実際に見て頂き、関わり方等体験して頂いている。今後も継続していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に2ヶ月に1回開催しているが今年はコロナウイルス感染予防対策の為、2月開催を最後に4月、6月、8月と中止にさせて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課担当者より空床状況確認(毎月)や、コロナウイルス関連の通知がある。2月の運営推進会議に出席頂いている。感染症対策や運営に必要なQ&A等必須事項に関しては随時メールで周知頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを心がけ実践している、玄関施錠は夜間のみとし、日中はセンサーと見守りで安全確認に努めている。3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催予定としているが、コロナ感染予防対策として書面での開催とし、スタッフ周知している。(3月、6月実施)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	通常は研修会等に参加し身体的、心理的、言葉の虐待を行わないケアを日常的に実践しているが、現在はネット等での情報収集、必要事項の周知を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護利用している方1名、成年後見人利用している方2名。市民後見人さんは月1回来訪頂き、生活状況をお伝えし必要な書類に押印頂く等支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項等の説明を充分に行い、理解、納得頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的、運営推進会議時等にご意見、苦情が有った際はスタッフミーティングで話し合い、解決策を打ち出しご家族様へ報告している。また、意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、提案は日常的に聞き入れ、内容によっては、全体ミーティング、施設長に挙げるなどして協議の結果をスタッフへ周知している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の能力評価を行い個々の努力や勤務状況に応じて時給UPに繋げやりがいを持って働ける環境作りの努めている。又シフトに関してはスタッフ個々の生活、身体状況等考慮し、休み希望の受け入れもして作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は外部研修には参加できず 定期ミーティング時にホーム内研修を行い スタッフ個々の力量を把握し同じ視点でケア出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修会、ひばり合唱団で他事業所との交流する機会が有り、活躍を通じて相互意見交換する等、知り得た情報をホームに持ち帰り、自施設のサービスの向上に努めていたが、今年はコロナ感染予防対策もあり、ひばり合唱団の集まりも行われていない。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面会時に知り得た情報をスタッフに提示し、入居後の状態も細かく申し送りに繋げ、安心してここで生活出来る様、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前ご家族様からの要望、困っている事等、十分に情報頂き、入居後は面会時、モニタリングの際、日常の様子、身体的、精神的な面をお伝えし相談しながら適切な支援が行えるよう関係作りにも努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から必要としている支援を見極めサービスの提供をしている。訪問理容、訪問看護、クリーニング委託等又支払い代行、買物代行の支援も希望の方に行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を見極め、出来るだけ色々な事に参加して頂き、ともに生活をする者同士の関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面、健康面等その都度相談しつつ、協働しながら入居者さんを支えて行く関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常時は行きつけの理美容室へお連れしたり、遠方の姉妹との便りを交わしたり等、息子さんからの電話を取り次ぐ等、関係が途切れないよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの方が日中リビングで過ごされている。一部の入居者さんは会話されているが、構われない、話しかけないでと無視される方もいる、その際にはスタッフが中に入り関わり合える支援をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様からの連絡もたまに有り、近況伺いや必要に応じて相談、支援を行う様心がけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り自己決定して頂ける様、又本人の希望に添えるよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好む事、嫌いな事等生活歴を基に把握し本人の思いを大切にスタッフ共有しサービスに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠状態、食事量、本人の表情等一人一人の状況を把握しながら穏やかな1日を過ごして頂ける様声かけ支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、3か月毎モニタリングし、本人、ご家族様の意向を最大限取り入れたケアプランを作成し、実践する様努め、状態に応じて適宜変更も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき毎日のケアの実践や変化の有る事等、SOAP式を使い個別の生活記録に記載し、申し送りにて情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が居られない方、遠方に住まわれている方に関しての受診対応、支払い代行、買物支援等柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会の活動等にも可能な方は参加していたが 外出自粛も有り現在は室内で楽しむことを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	清月クリニック月1回往診2名、道東の森HP訪問診療月1回3名 玉越HP訪問看護4名 主治医との連携、相談は出来て居り適切な医療を受けられる様支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な気づきや情報は管理者へ報告、相談し、保健師が定期的に健康管理を行い情報共有している。又訪問看護来館時はその方の状況をお伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療必要になられた際は、常に本人の状態を知る為、面会を頻回に行い、主治医から状態説明受け、ご家族様と相談し早期退院が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関しての指針は整備している為、契約時に説明し対象となる入居者は常に主治医、ご家族様の意向、保健師と相談するなど支援している昨年は2名の方を当ホームで看取らせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応AEDの使用方法はスタッフH29年7月スタッフ全員講習を受け習得しているが、実際に使用した事は今の所無く、入居者急変時は管理者へすぐに報告する様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年では、5月に所轄の職員立ち合いのもと避難訓練を行っていたが、本年は自主訓練を行い 10月も自主訓練を行う予定。ご家族、町内会の連絡網を作成し緊急時災害時等の協力体制を構築している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状況を察し、気分を損ねない様な声かけを行い、笑顔で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりと入居者さんの答えを待つて自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の状態により、戸外散歩やゲーム等の提案をし、声かけを多くすることで出来るだけ本人の希望に沿って過ごして頂ける様支援しているが、入居者様からの要望は殆どなく スタッフの提案にて楽しんで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは本人の希望を聞き、下着は毎日交換をするよう声かけ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん食事、おやつをいつも楽しみにされ、食欲も旺盛な方が多く居られる。家事手伝いは、「今までやってきたから、ここで、したくない」と話す入居者様もいる為、無理強いせず、本人の意向に添った支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限されている方1名以外は1200~1500CC 目途に水分提供しているが、拒否される方は本人の好む飲み物を提供、食事もその方に合わせて食事形態を変えて提供するなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは出来るだけ自力で行って頂き、口腔状態に応じて一部介助させて頂く。舌苔のある方はモアブラシ、舌ブラシを用いて介助し清潔に保つ工夫を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に個々の排泄パターンを把握し失敗の多い方は都度声かけ、見守りを行っている。後始末不十分な方には介助させて頂くなど、不潔行為に繋がらないケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い個々に応じて、起床時の冷水、牛乳等提供し、動ける方は軽運動、歩いて頂くなど行っている。腹部マッサージを施す事も有り便秘予防に努めている。必要に応じて下剤服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂ける様、出来る限り本人の希望に沿った入浴介助を心がけ、入浴拒否される方には、他のスタッフが携わる等、不穏にならない様声かけ支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠が出来る様一人一人の部屋、ベッドが気持ちよく過ごせるよう、ベッドメイク、リネン交換も適宜行い整理整頓を忘れずに支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セットした際、服薬時等Wチェックをし必ず声を出し錠数の確認も行い、指示通り服薬で来るよう支援している。又、中止、追加等有る場合は症状の確認も行い、申し送りに繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として食器拭き、タオルたたみ、お茶パック詰め、新聞たたみ等出来る方にお願ひし、食後のコーヒーを楽しまれる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外散歩に出掛け気分転換をして頂いていたが、コロナ感染予防対策の一環として少人数での散歩のみ実施。Faと墓参り、買い物等出かけていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年は一緒に買物へ行く事が出来ていないが、入居者さんからの希望の洋服など管理者が買い物代行している。紛失等によるトラブル回避の為、個人では金銭を所持していない。お金や通帳等確認を希望する入居者様には、都度お見せし確認頂ける様体制は整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、希望時はご家族に電話を繋げたり都度支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、温度、湿度、臭い等不快を生じないように常に配慮し、冬季間は濡れバスタオル、霧吹きなどで湿度を保っている。リビングには季節毎の花、飾り、入居者さんの作品、行事毎の写真等掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて過ごされる方が殆どで、思い思いの場所でゆっくりとくつろいで頂ける様支援している。又、独りになりたい方は居室等で過ごして頂き、無理強いせずに本人の居場所づくりを支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂き、その時の状況によりFaと相談して模様替えを行う等、動きやすい配置にしている。写真や好みの物を置いて気持ちよく過ごして頂ける様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時は廊下の手すり使用、バリアフリーの回路型廊下の為、自ら毎日歩行訓練されている方も居り、安全に生活できるよう支援している。		